

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2492700030		
法人名	医療法人 桜木記念病院		
事業所名	グループホーム桜木さん・明和		
所在地	三重県多気郡明和町大字佐田字沼2055		
自己評価作成日	平成 26 年 6 月 23 日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kihon=true&JigvosvoCd=2492700030-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 26 年 7 月 11 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

常に生活の中で、利用者様の笑顔と笑い声がたくさん見られ聞こえるような施設運営を目指しています。利用者様一人一人が生き生きと毎日を過ごしていただけるように、小さなことでもそれぞれに役割を持っていただき、利用者様とスタッフが一緒になり、共に参加しあう生活を目指し努力をしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

明和町の広々とした田園地帯の中に静かな佇まいの開設8年目の事業所であり、施設内も外観同様広く余裕のある造りで、利用者はゆったりと過ごしている。隣接地には公立の保育園があり、園児との交流も盛んに行われるなか心穏やかな環境であると言える。事業本体が医療法人であることから、医療・看護との連携が確実に約束されており、利用者及び家族の安心となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型の意義を職員全体で理解に努め「尊び心から尽くし介護させていただく」を理念とし、行動理念の構築と定着に努めている。	理念の共有という意味で、毎朝の朝礼の折に職員全員で理念の復唱を行っており、誰もが理解し実践できるよう工夫がなされている。また、月1回の全体会議の中でも常に確認されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域の行事への参加、施設行事への招待などは行っているが、まだまだできていない状況である。	自治会には法人会員として入会しており、行事にも参加している。また隣接する公立保育園の園児の散歩コースに施設内を開放し交流を図っている他、大正琴や踊り等のボランティアの受入も熱心に行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、地域連携推進会議、研修会などには積極的に参加をしている。また、地域施設の実習生の受け入れも積極的に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議において、施設行事への参加、取り組み事項などを実際に見て体験いただくなどして利用者様家族、自治会、民生委員、地域包括支援センター、腸担当者との話し合いや意見交換を行っている。	運営推進会議は、町役場担当者、地域包括支援センターなどの固定メンバーに加え主治医、地域の事業所、消防署など必要に応じて任意のメンバーにも加わってもらい、2ヶ月に1度の割合で熱心に開催している。	メンバーの構成を更に広げて、多くの立場の意見を取り入れられるよう工夫をされたい。併せて議事録を整理し、欠席者にもその報告がなされ、協議内容等の共有を図り今後の運営に役立たせられたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町担当者が主催する地域連携推進会議があり、他事業所、町、地域包括支援センターなどの情報交換やコミュニケーションをとっている。	町が主催し介護関係事業所等が集まって研修などを行っている。また町役場に施設の行事案内などを置かせてもらったり、窓口での用事の際に運営推進会議の報告をしたりと常に協力的な関係を保っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	介護指定基準などにおける禁止の対象となる具体的な行為を理解し、生命の危険が伴う場合には市町村に連絡し、家族に対しては十分な状況説明の上文書にて同意をいただいている。	職員全体会議の中で拘束に関する勉強会を行う他、年1回運営主体の病院からの研修で理解を深めている。また、現在Y字帯等を装着する利用者が3人おり、いずれも家族に口頭で説明し、文書で了解を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム内の虐待は一切ない。更に今後も虐待防止の為に母体の法人より講師を招き、勉強会を実施し、職員の虐待への意識向上を図りより一層の虐待防止に努めてゆく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際に利用されている利用者様もおられ、社会福祉協議会と連携し必要な支援を現在もやっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には必ず管理者が契約についての重要事項の説明を行い、同意を得たうえでの契約締結としている。特に重度化した際の対応、急変時の対応に関しては重点的に説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の様子や言動から心理的状況を察知するように努めている。またその内容については日誌やケース記録で情報の共有化を行っている。ご家族様の面会時などの会話の中にご意見、苦情がある場合には、運営者、管理者に報告し、問題解決や運営改善に役立っている。	利用者・家族とも殆どが明和町内の人で、気心を知るなか要望への対応は出来ている。苦情等に対する窓口は常に開いており、それを案内する表示を玄関に貼り出してある。一般的な相談はユニットリーダーやケアマネジャー、医療行為に関する相談には病院が対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度職員会議を開催し、問題点の提起や改善、要望など自由に発言いただける場となっている。また随時、職員間での話し合いを行い、結果を反映していただいている。	職員の意見や提案を聞く機会として、月1回朝の1時間を利用して全体会議を行い、併せてユニット毎のカンファレンス、また全体のGH会議でも聞く機会を持っている。職員間の意見や話し合いは管理者が整理している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のやりがいを重視し、働きやすい職場にするべく努力し、環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員よりの自主的な申出、施設に来る研修の案内等、受講の機会がある場合には研修を受けていただけるよう勤務編成を含めた環境作りに努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での連携推進会議、勉強会などに積極的に参加できるよう、勤務編成も含めた環境作りに努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面会に伺い本人様の御希望、要望などや不安に思われていることなどをお話してそれを受け止めるように努めている。また、入所初期にはこまめにコミュニケーションを図り気兼ねなく話し合える関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用前に施設見学をしていただいたり、事前面接によりご家族様が困っている事や要望を伺うことで安心していただき、より良い関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に家族様の要望本人様の希望などより、まず必要となるサービスを見極め、必要とあれば前施設と連携し、他のサービスも含めた対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活を、一方的に介護してもらう立場に利用者様を置かず、残存機能を活かしお互いが一緒に助け合って生活をしていくという意識で支援にあたっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に利用者様の近況をお伝えしたり、また、日々のケアに当たるうえで必要な、在宅時の状況を教えていただいたり、家族様とのコミュニケーションを密にすることにより、家族様を巻き込んだチームケアに当たれるように努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様の御意向を伺いながら、本人様の友人、知人、幼馴染等が訪問しやすいように支援を行っている。	利用者の殆どが地元の人で、同じ出身地同士のつながりで良い面とそうでない面もあるが、これを利点として捉え積極的に支援している。また知人等の訪問には、家族の意向を考慮しながら機会を増やせるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の状況や、利用者様同士の関係を注意深く見守り、孤立しないようにかかわっていくように心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば随時対応をできるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族に暮らし方の希望を聞くようにしている。把握が困難な場合は、本人の視点に立って思いをくみ取ったり行動を観察するなどして把握に努めている。	入居当初は帰宅願望があったりするものの、その人の過去歴から様々な情報を得て思いの把握に努めている。また利用者の日々の思いには職員全員で気を配り、気付きについては日報に記して共通理解を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や利用者の知人、入所前の担当者から情報を得たり、また入所後は本人との会話の中から情報を得たりするように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人一人の生活リズムを理解するように努め、日々の変化する状況を正確に把握するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回のカンファレンスで、利用者様の意向・要望と現状を職員どおして話し合い、共有した情報としている。また、ご家族様来苑時には日々の様子を伝え、意見・要望を伺い、介護計画に取り組んでいる。	カンファレンスは毎月25日前後を目途にして実施している。介護計画は3カ月ごとに作成しているが、状況の変化には随時対応している。モニタリングは介護記録を基に行い居室担当を始め全員で対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の生活状況を個人の生活記録に記入し、職員の共通の情報としている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に必要な支援をできる限り柔軟に取り組んでいる。病院への通院介助、身体状況変化等の緊急時にもすぐに対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社協やご家族様、自治会からのボランティアの紹介を得たり、小学校の慰問などを積極的に受け入れている。また、町立図書館の資源を利用したり、相互に協力しながら支援を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医に、入所後も継続して診ていただけるよう施設への往診を含め、主治医及び家族様と相談調整しております。	現在、かかりつけ医を持っている利用者はおらず、対応は全て事業本体の桜木病院で行っている。訪問看護は1～2週に1度、訪問診療は月2回、他に往診があり医療連携に対する支援は充足している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理についての相談、心身の変化や異常発生時の対応方法について、指示や助言がもらえる体制が出来ており支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護サマリーを提供し、日常生活の情報を伝える。入院中には定期的に病室担当ナースに病状伺いを行い、退院時には施設での生活がスムーズに行えるように病院より情報をいただき対応するように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院時には看護師に日常生活の情報を提供し、入院中は定期的に病室を訪問し、病状の確認を行っている。また病棟の担当看護師に病状を確認し退院してからスムーズのホームでの生活に対応できるように努めている。	看取りには対応しており、病院と一緒に作成した指針を設けている。入居時に家族ともども意思の確認を行い、その後は状況の変化に応じ再確認を繰り返しながら医師が判断をするという手順で、施設としての支援体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルがあり、いつでも職員が閲覧できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の定期的な火災・防災訓練を実施し、問題点の抽出や見落とし事項の洗い出し等を実施している。また、地域連携会議等で、町や他施設の防災対策を情報交換し、自施設に役立てている。	自治会等との合同、また火災想定は夜間訓練は実施できていないが、津波想定は3mと言われており、避難ビル及び避難場所は全員が認識している。これらを踏まえて定期的な防災訓練を実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけや気配りに配慮して、不適切な介護や対応に関しては職員同士で注意しあい、職員全体の問題として捉えている。	特に排泄に対する声掛けには注意し、他の利用者に気づかれることのないよう配慮しながら支援している。また利用者の居る場での職員同士の会話にも、個人を特定する中でプライバシーを損ねないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中での、表情や会話の中で自己決定やその人らしい希望を引き出すように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるが、基本的には利用者様の希望やペースに目を配り、柔軟に対応できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装に関してはご自分で選んでいただき、その人の個性を大切にしておしゃれを楽しんでいただいている。お化粧品についても自由にさせていただいております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューは決まっているが、本人の好みを伺いメニューに取り入れている。また行事の時には特別食の作成や、外食など、希望に合わせた食事を楽しんでいただけるよう対応をしている。	献立は病院の管理栄養士が立てて、調理は施設で行っている。月一度は献立リクエストに応えたり、交代で外食にも出かけている。また食事の楽しみに繋がることとして、利用者自らが敷地内の畑で季節の野菜を摘み食材としている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事量、水分量のチェックを行っている。また、利用者様の体調、習慣によっても調理方法、食事形態を一人一人の状態に合わせて支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けを行い、困難な場合には利用者様の状況に合わせて支援を行っている。また、家族様の要望を聞き、歯科医師による口腔ケア往診を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムやパターンを観察して、声掛け、介助、見守りを実施している。さりげなく介助し、本人様に負担にならぬよう留意し支援をしている。	ボードに個々の排泄記録を毎日つけて、記録簿に転記し排泄チェック表としている。これにより利用者全員の状況を職員が共通認識できるようにしている。布パンツ、パッド、紙パンツ等には拘らず利用者の状況に応じて心地よい支援ができるよう柔軟に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含んだ食品を使用しての献立作りや、体操、レクリエーション、散歩等を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望、体調、気分によって一人一人に合った入浴支援をしている。無理強いせず、入浴が楽しめるように支援をしている。	基本的には毎日でも入浴可能で、人によっての曜日や時間は決めていない。さまざまな理由により入浴を嫌がる利用者があるが、その都度柔軟に対応し、入浴剤や音楽などにより楽しめる工夫もしながら支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時の状況に応じて、ベッドやフロアのソファで休めるように一人一人に対しての支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が常に確認できるように薬剤情報を作成し、ファイルしてある。また医師に指示により薬剤が変更された場合には、日誌にて職員全員が周知できるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理の下準備、畑仕事、掃除、食事の後片付け、洗濯物の片付け等、日常生活の習慣、経験を生かした役割を支援して、楽しんでいただいております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物、近場での花見、足湯など外出を行っている。また、外食、ドライブ等家族様の協力も得ながら出かけられるように支援を実施している。	散歩、或いは買い物などで外出する機会を見出し、近くには大型商業施設や無料の足湯などもあり楽しんでいる。身近なところでは、敷地内の広い畑に出て草むしりや収穫など四季を通じての楽しみとなっている。また月1回は季節のドライブとして少し遠出の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる利用者様には個人で財布を所有していただいている場合もある。買い物同行時には希望のものを購入いただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話をかける(受ける)支援、手紙の投函等を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い共用空間の中、ゆったりとした気分で生活感が目で感じられるように生活環境に配慮している。	リビングは広々として採光も良く、利用者は日中のうちの殆どの時間をリビングでゆったりと過ごせている。ソファでTVを観たり、時にはボランティアの踊りや病院からの足裏マッサージの場所に使ったりして、共用空間として快適に利用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で入居者同士自由にゆっくりと過ごすことができ、一人になりたい時には各居室で過ごすことができるようにそれぞれ配慮をしている、		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や生活用品が持ち込まれ、安心して過ごせるように対応しているが、危険と思われる場合には家族様と相談しながら安全面にも配慮をしている。	それぞれが馴染みの家具を持ち込んで、個性ある空間づくりをしている。ベッド等は備え付けのものを利用しているが、持ち込み家具には転倒防止器具を施設で設置し、窓ガラスのメッシュと共に安全に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーでフロア全体、浴室、トイレ廊下には手すりを設置し、安全に生活できるようにしている。又、個人の長所を生かし、可能な範囲でできることをしていただくように努めている。		